

授業科目の区分等：専門教育科目 経営学科 発展科目

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	2年	2	選択
担当教員			
萩原 豪			
B (経営学科)	S (専門科目)	TR (観光)	204 (中級科目)

授業のねらい (概要)	マーケティングの視点から、観光全般について考えるための講義科目。「観光」「旅行」は消費者にとってどのような意義をもつのか、どのようなニーズが存在するのかについて、ついて考察をする。次に観光資源の事例についてどのようなマーケティングが行われているのか、群馬県における観光マーケティングについて考察を深めていく。そして、群馬県における地域資源を活用した観光マーケティングについてワークショップを進めていき、観光地や旅行商品開発の提案を試みる。
授業計画	<p>第1回 【遠隔】ガイダンス (授業の運営方法説明) 予習 (時間) : シラバスの確認および授業テーマについて情報収集。 (120) 復習 (時間) : 配信資料の見直し。 (120)</p> <p>第2回 【遠隔】マーケティングから見た観光 予習 (時間) : 授業テーマに関する情報収集。 (120) 復習 (時間) : 配信資料およびノートの見直し。 (120)</p> <p>第3回 【遠隔】観光資源とブランディング 予習 (時間) : 授業テーマに関する情報収集。 (120) 復習 (時間) : 配信資料およびノートの見直し。 (120)</p> <p>第4回 【遠隔】観光資源の事例研究 (1) 世界遺産 予習 (時間) : 授業テーマに関する情報収集。 (120) 復習 (時間) : 配信資料およびノートの見直し。 (120)</p> <p>第5回 観光資源の事例研究 (2) 寺社仏閣 予習 (時間) : 授業テーマに関する情報収集。 (120) 復習 (時間) : 配信資料およびノートの見直し。 (120)</p> <p>第6回 【課題】観光資源の事例研究 (3) スポーツ 予習 (時間) : 授業テーマに関する情報収集。 (120) 復習 (時間) : 配信資料およびノートの見直し。 (120)</p> <p>第7回 【課題】群馬県におけるインバウンドと観光マーケティング 予習 (時間) : 授業テーマに関する情報収集。 (120) 復習 (時間) : 配信資料およびノートの見直し。 (120)</p> <p>第8回 群馬県内の温泉と観光ブランディング (1) 予習 (時間) : 授業テーマに関する情報収集。 (120) 復習 (時間) : 配信資料およびノートの見直し。 (120)</p> <p>第9回 群馬県内の温泉と観光ブランディング (2) 予習 (時間) : 授業テーマに関する情報収集。 (120) 復習 (時間) : 配信資料およびノートの見直し。 (120)</p> <p>第10回 【課題】群馬県内の温泉と観光ブランディング (3) 予習 (時間) : 授業テーマに関する情報収集。 (120) 復習 (時間) : 配信資料およびノートの見直し。 (120)</p> <p>第11回 フィールドワーク 予習 (時間) : フィールドワークの準備。 (120) 復習 (時間) : フィールドワークのまとめ。 (120)</p> <p>第12回 フィールドワーク 予習 (時間) : フィールドワークの準備。 (120) 復習 (時間) : フィールドワークのまとめ。 (120)</p> <p>第13回 フィールドワーク 予習 (時間) : フィールドワークの準備。 (120) 復習 (時間) : フィールドワークのまとめ。 (120)</p> <p>第14回 フィールドワーク 予習 (時間) : フィールドワークの準備。 (120) 復習 (時間) : フィールドワークのまとめ。 (120)</p> <p>第15回 総括 (ふりかえり) 予習 (時間) : これまでの資料やノートを読み直す。 (120) 復習 (時間) : 最終レポート作成の準備。 (120)</p>
授業を通して身に付けることができる能力 (DP)	<p>DP (商学部) の3項目を意識した科目となっている。</p> <p>2. 情報の収集、分析を行い、進んで課題解決に臨む姿勢</p> <p>3. 専門的分野の学びを、実務や社会で応用できる能力</p> <p>4. 大学での学びを地域に還元し、価値を創造する姿勢</p> <p>DP (経営学科) の①項目を意識した科目となっている。</p> <p>2. 経営資源 (ヒト、モノ、カネ、情報) を多面的に理解し、活用できる能力</p> <p>【身に付くスキル】 創造的思考力・協働能力</p>
到達目標	<p>(1) 観光における地域資源の重要性を理解できる。</p> <p>(2) 群馬県内の観光資源を発見し、観光地開発や旅行商品開発の提案することができる。</p> <p>(3) グループワークなどの協働作業を通じて、問題発見・認識力およびコミュニケーション力の習得と、積極</p>

	性や責任感の醸成することができる。 (4) プロジェクトの企画やレポート作成などを通じて情報収集力やITスキル（PCやインターネットの使い方）、文章力やプレゼンテーション力の習得することができる。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	リアクションペーパーや課題等については全体的な注意点などを授業内で解説する。
履修上の注意	(1) この授業は一方的な講義形式だけではなく、受講生同士の対話の時間を積極的に持つワークショップ形式の授業を展開していく。授業を通じて気づいたことを、第三者と話すという行動を通じて自らが考え・学ぶというスタイルのため、日常的に新聞・テレビ・インターネットを通じた情報収集をするなど、主体的・能動的な姿勢が求められる。 (2) 「観光まちづくり基礎」「商品開発演習」「観光まちづくり実践」のいずれかの単位を修得をしていることが望ましい。未修得の場合には、いずれかの科目を並行して履修することが望ましい。 (3) 進捗状況によって授業内容を組み替える可能性もある。 (4) 授業の一環として調査活動（フィールドワーク）を2回実施する（土曜ないし日曜）。日程については現在調整中のため、授業内で指示を出す。交通費などフィールドワークにかかる費用は実費自己負担とする。昨年度は草津温泉・伊香保温泉・磯部温泉で実施した。大型バスを利用する場合、2,500～3,500円前後のバス代を自己負担としている。これらの調査活動は授業時間として充当する。その後、各自が補助的に実施する調査活動については予習・復習の時間内の活動として扱う。
成績評価の方法・基準	期末試験は行わず、中間レポート（800～1,200字程度）および最終レポート（1,200～2,000字程度）の提出を求める。また毎回の授業後にリアクションペーパーの提出を求める。評価基準は学修意欲：40%、中間レポート：20%、最終レポート：40%、で総合的に判断する。 [注意] 中間レポートおよび最終レポートの提出がない場合は評価対象外とする。
教科書	
参考書・教材	【参考文献】授業中に適宜紹介していく。 【教材】書籍・新聞・雑誌・マンガ・映画・ウェブサイトなど、身の回りにある情報源から関連する事柄を幅広く取り上げていく。紹介する事例によっては、ビデオやDVDなども用いる。また必要に応じて、参考資料を配付する。
備考	講義科目 2020年度は6、7、10回を課題研究として学修する。 第6回では、これまでの授業の内容（特に第4回～第5回）を踏まえて、教員が指示をしたテーマについて、指示された情報源や方法でレポートを作成して、指示された通りに提出をする。レポートの詳細については第5回の授業で指示を出す。全体で330分の学修を想定している。 第7回では、これまでの授業の内容（特に第3回～第6回）を踏まえて、教員が指示をしたテーマについて、指示された情報源や方法でレポートを作成して、指示された通りに提出をする。レポートの詳細については第5回の授業で指示を出す。全体で330分の学修を想定している。 第10回では、これまでの授業の内容（特に第8回～第9回）を踏まえて、教員が指示をしたテーマについて、指示された情報源や方法でレポートを作成して、指示された通りに提出をする。レポートの詳細については第9回の授業で指示を出す。全体で330分の学修を想定している。 「成績評価の方法・基準」欄にある「中間レポート」は、ここで示す課題研究のレポートを充当する。実施方法の詳細については、第1回で概要を説明する。
教員との連絡方法	基本的にメールを用いる。授業用アドレスは授業内で告知する。